

第1回新規採用・新規採用臨時的任用学校事務職員研修講座報告

日時 平成29年6月23日(金)

於 ホテルアウィーナ大阪

梅雨の中休みでお天気にも恵まれ、20名の参加を得て、研修講座を開催しました。5つのグループに分かれて着席していましたが、研修開始前は、初対面の方も多かったのか表情も硬く会話もあまりない状態でした。

冒頭、細野会長より、府事研設立の経緯や各専門部の紹介等のガイダンスがありました。



【第1部 コミュニケーション研修】

アイスブレイクとして、まず、積み木方式の自己紹介を行いました。ルールは二つです。①メモは禁止、②自分より前の人自己紹介を引用しながら自己紹介する。

次に、他己紹介を行いました。まず、3分間で隣の人にインタビューして話のネタを集めます。次に、1分間で話す内容をまとめます。そして2分間で他己紹介をするという流れでした。この頃までには、お互いに打ち解けて、グループで話が盛り上がっていました。

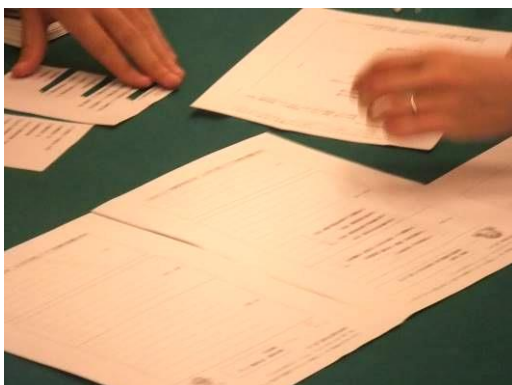
【第2部 認定事務に関する問題演習】

認定事務の手引きを参考にしながら、問題を解いていきました。問題の分量が多い中、25分という制限時間の中で、熱心に問題に取り組んでいました。

【第3部 ワークショップー事務処理マニュアルを作ろう】

新規採用・引っ越し・結婚・妻の出産という4つの設定事例について、認定事務や共済・互助、SSCの手続きでどんな書類があるのか、何をすべきなのかを、語群シートを基に考えていきました。

それぞれの事例を全員で話し合いながら進めているグループもあれば、事例を分担して取り組んでいるグループもありました。その後、話し合っただけの答えを発表しました。「所得証明書はいる?」「住民票は要ったよね」等、自分が持っている知識をフル活用しながら協力して取り組んでいる姿が印象的でした。



最後に、澤田研修部長が、「人と人とのつながりを大切にしてほしい。同期の人や他市の方とつながる努力をしてほしい。そのつながりは一生の財産になります」とエールを送り、研修講座を終えました。(総務部 原田)

第49回全事研京都大会 第2分科会報告



平成 29 年 8 月 3 日 (木) みやこめっせ (第 2 展示場 A 面) にて、本研究会研究部が、第 49 回全国公立小中学校事務研究大会 (京都大会) の第 2 分科会を受け持ちました。午前、午後とも研究発表をした後、グループワークを行うという形をとりました。

午前の部では、大阪府の紹介や大阪府の事務職員制度や現状の紹介、府事研の概要から始まり、これまでの研究成果や、その成果を踏まえ、「大阪の学校事務のランドデザイン」について研究を続けてきたと発表しました。

まず、その「大阪のランドデザイン」の研究を進めていくにあたっては、学校事務職員の使命とは何かということと学校におけるトータルプロデューサーとしての学校事務職員像を明確にするところから始め、「学校力を高め、子どもたちの豊かな学びと育ちを実現する」ということが、ランドデザインにおける学校事務職員の使命であると再確認したと発表しました。

つぎに、トータルプロデューサーとしての学校事務職員像について触れ、①「果たすべき役割」②「学校事務職員を支える学校事務組織としての共同実施の在り方」③「身につけておくべき知識や能力、その力量形成の方法」の 3 つの観点から、重要であると考えたと発表しました。

① 果たすべき役割

4 つの「カリキュラムマネジメント」(財務マネジメント・学校組織マネジメント・情報マネジメント・ネットワークマネジメント) と関わり、様々な学校課題に対応していくことが「果たすべき役割」であり、その前提にあるのが「就学保障」であると発表しました。

発表後には、京都教育大学大学院 連合教職実践研究科 教授の竺沙 知章先生から「教育とは、予定通りには進まないため、PDCA サイクルを意識してやればうまく成果があがるという単純なものではなく、非常に複雑なものである。いろいろな問題を抱えている子供たちに対して学校の目標を達成していくような組織的な営みには、非常に高度なマネジメントや専門性が必要になってくる。そのことを理解し、教員と情報交換や意見交換しながら、いろいろな情報を共有していくことがこれからの学校事務職員にとって大事である」とコメントをいただきました。

そのあと、1 グループ 6 人程度でグループワークを行い、他府県同士の交流を深めました。「あなたの学校をどんな学校にしたいですか?」という問いに対しては、「子ども～」で始まる人が多く、「子どもも大人も心にゆとりのある学校」という答えが印象的でした。



また「活躍するトータルプロデューサーとは、どんな学校事務職員ですか」という問いでは、「教員や管理職、保護者や地域にとって〇〇な事務職員」といった様々な意見があり、心構えや立ち振る舞いに関しての意見が多く見受けられました。どのグループも活発に交流を重ね、時に熱く想いを語り合ったり、時に笑いが起こったりと熱気に包まれながら、午前の部は終了しました。(総務部 長澤)



午後の部では「トータルプロデューサーとしての学校事務職員像」として重要な3つの観点のうち、残りの②③について発表しました。

② 共同実施のあり方

トータルプロデューサーの役割を市町村のすべての学校で実現していくには、複数校の事務職員が連携して組織的に学校事務を行う共同実施が不可欠であること。トータルプロデューサーとしての役割を果たしていくための組織の形としては、中学校校区を基本単位とした共同実施が有効であると考えていること。この2点を基本として、組織としての3つの要素「共同目標」「指示（支援）」「管理システム」と、学校事務職員の特性を踏まえた個々の事務職員の積極的な実践と改善を併せ持つ共同実施組織の形を構築することで、どの学校でも安定的に高度な学校事務機能を提供できるということを述べました。また、中学校区の共同実施として、学校事務機能強化と校区学校経営の2つの役割を実現していくための取組内容を各市の取組とともに具体的に発表しました。

③ 事務職員の力量形成

ハーバード大学のカツ教授は、マネージャーに求められる能力を、テクニカルスキル・ヒューマンスキル・コンセプチュアルスキルの三つに分類しました。これを事務職員に当てはめると、求められる力量とは「テクニカルスキル：高度な学校事務に関する知識」、「ヒューマンスキル：組織を動かしていく力」「コンセプチュアルスキル：複雑化、多様化する学校課題に対応できる力」、この3つの力をバランスよく身につけていくことであると考えます。より高度な力量を身に着けていくためには、集団研修と共同実施による現場でのOJTが必要であると同時に、職階や経験年数による研修を効果的に組み合わせることが必要であると述べました。

発表の後、助言者の笠沙先生より、「カリキュラムマネジメントや教員との関りが共同実施でもテーマとなってくる。共同実施は、仕事の効率化を図ることが目標ではあるが、それぞれの学校の教育をより良くするための共同実施であるべき。そのために、それぞれの学校でどんなことを行っていきたいのかが共同実施の大きなテーマとなる」「研修については、求められる力量はそれぞれの学校で異なるため、OJTが基本となる。研修モデルに合わせすぎることなく、日々の業務とのつながりの中で力量形成を考えていくことが大切だ。様々なタイプの学校や地域に勤めて、視野や経験を広げていくことが大事」とのコメントをいただきました。

実際の現場の雰囲気そのまま映されたロールプレイが流れたのち、グループワークとなりましたが、どのグループでも各自の取組とこれからの展望が熱く語られていたと感じました。

最後に笠沙先生より「共同実施を都道府県単位で行っていく難しさとおもしろさや、研究とは日々の業務から『なぜ?』という問いかけを大切に、実践を積み重ねていくことである」とのお話があり午後の報告を締めくくりました。

全国大会の場で、大阪の学校事務職員が大切にしている就学保障を基盤とした学校事務のグランドデザインの内容を中心に、これからの学校事務について多くの参加者とともに考えることで、自らの日々の取組を客観視することもでき、良い経験になりました。

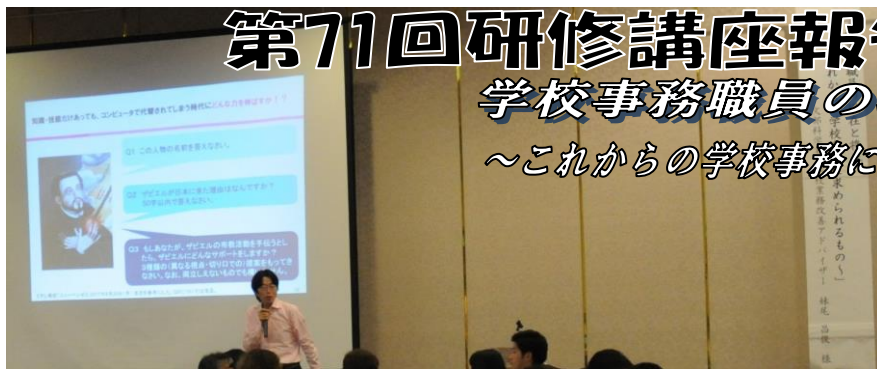
(総務部 中野)



第71回研修講座報告

学校事務職員の現在と未来

～これからの学校事務に求められるもの～



日時 平成29年7月7日(金)
 於 ホテルアウィーナ大阪
 講師 文部科学省
 学校業務改善アドバイザー
 妹尾 昌俊 様

「学校業務改善アドバイザー」という言葉に興味を持ち参加すると、用意されていたグループ席を急遽増設するほど参加者が多く、広い会場は満席となっていました。

講師の方は、学校の運営やマネジメントについての本「変わる学校、変わらない学校」の著者で、学校事情に精通しておられ、内容も共感できることが多く興味深いものでした。

まず、「チーム学校」と言うがそもそも「チーム」とは？と設問が与えられ、「グループ」との違いをそれぞれが考えた後、班で話し合い報告をしました。それを受け、「チームとして重要な要素のひとつは目標の共有と実践。課題を共通認識できている事」と示されました。

次に、学校課題の一つ「子どもたちが社会を生き抜く為には、どのような力を伸ばしていけばいいのか」について、ワークを行いました。『フランシスコ・ザビエル』を例に挙げ、この人物が、いつ・何の目的で・何処に来たのかではなく、「この人物の布教活動を手伝うとしたらあなたならどうしますか」という内容でした。このワークではどの班も非常に盛り上がり、報告ではユニークで様々な意見が多数ありました。このように、「Wikipedia で調べれば解決する知識ではなく、考える力を伸ばしていく事がこれからの時代、重要になってくる」と話されました。

休憩をはさみ、後半は、小中学校教職員の長時間労働の実態。過労死が問題になっている中、それを把握しているのは実は学校事務職員。強み弱みを組織として把握し連携することで、最悪の事態を食い止めることができるかもしれないという事。その他、野村総合研究所の人工知能やロボット等による代替え可能性が高い職業の報告や専門性を持っていても、時代に対応できず今では存在しない職業もある等、身につまされる話でした。最後に、「今回の講座で心に引かれた事を大事にし、ひとつでもチャレンジし、来週からの仕事に活かしてってください」と締めくくられました。

初めの「チーム」とは？の設問の際、同じ班になったベテランの方が、「今日偶然出会ったこの班も今はグループ。でも、共通の目標を作り、その達成の為に個々の役割を決め、全員がその目標に向かっていくことでチームになる」と意見されていました。今回は、講義の内容から「改善」の大きなヒントをもらえたような気がします。学校における唯一の行政職員の視点から、各学年間や管理職とのつなぎ役となり、学校が「グループ」から「チーム」に進化できるようサポートしていきたいと思いました。（総務部 松原）

編集後記

日中はまだまだ夏を思わせる暑さが続いているが、朝晩は、少しひんやりとした空気を感ずることができるようになってきた。

このところ、年を追うごとに、夏の暑さが増してきているように感じるのは、気のせいだろうか。

あつといえれば今年も、全事研大会が京都で開催され、大阪府からも多くの方が参加され、全国の仲間とともに熱い議論を繰り広げた。

学校事務職員を取り巻く環境も変化が激しい。

「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に法規定が変更された。

学校事務職員に対する暑い期待を感じた夏でもあった。(H)

